

## 2. 若者予防グループ②

滞日ブラジル人若者を対象とした予防介入に関する研究

平成19年度 研究報告書

《滞日外国人グループ》

【滞日ブラジル人若者を対象とした予防介入に関する】

【平成19年度の研究チーム】

岩木エリーザ、津島ソーニャ(NPO 法人 CRIATIVOS)

カンペイロ・フェリッペ(北海道大学情報科学分野)

リマ・アラウージョ(GIV、ブラジル)

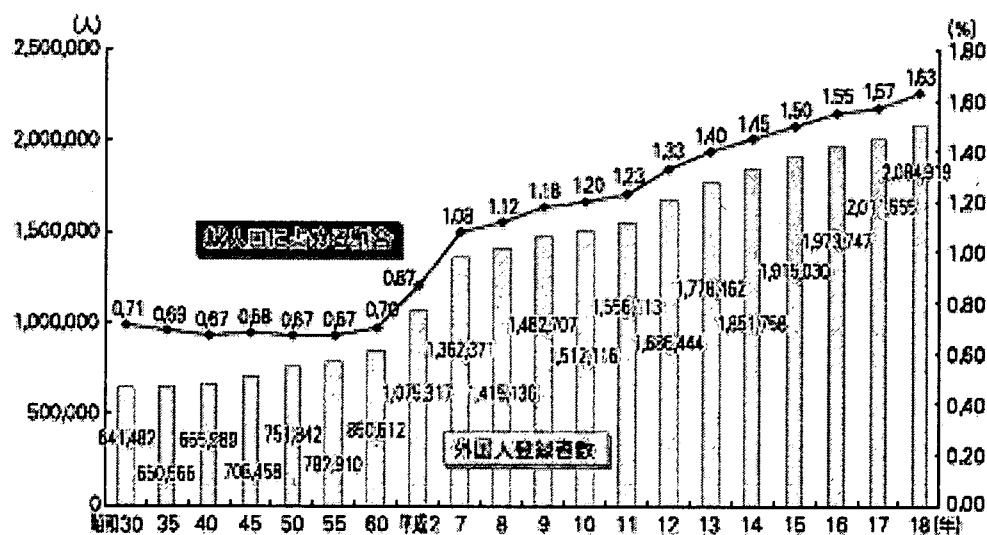
田井志保里、木原雅子(京都大学)

【背景】

日本の入国管理法の改正以来、来日する外国籍住民は年々増加し、平成18年末現在においては、外国人登録者数は日本の総人口の1.63%を占めていた(図1)。また、出身地別では韓国・朝鮮、中国に次ぐブラジル国籍が上位3位をしめ、ブラジル国籍に関しては増加傾向は続いていて、平成18年には312,979人に増加した(図2)。

ブラジル国籍の外国人登録者がもっとも多い地域は愛知県(7万人以上)そして、静岡県(5万以上)であった(表1)。さら、文部科学書の調べによると、一般の日本の学校に通学中の児童における日本語の指導が必要とする児童数は過去最大で70,936人であった。さらに、言語別で調べると、ブラジル出身のポルトガル語を母語とする児童が最も多く、38.5%を占めた(表2)。

図1:外国人登録者数の年次推移と日本国の総人口に占める割合の推移。

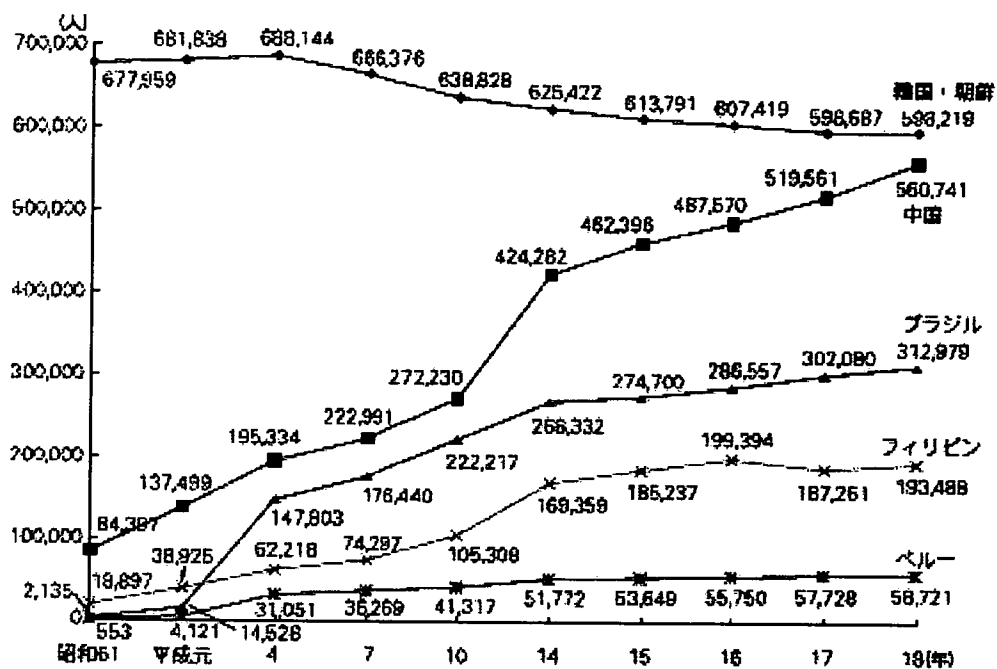


(注1)「外国人登録者数」は、各年12月末現在の統計である。

(注2)「我が国の総人口に占める割合」は、総務省統計局「人口統計年報平成16年10月1日現在推計人口」及び「国勢調査要計表人口」により、各年10月1日現在の推計及び要計人口を基に算出した。

出典:法務省入国管理局編「出外人管理」平成19年版

図 2: 主な国籍(出身地)別外国人登録者の年次推移。



出典: 法務省入国管理局編「外国人管理」平成 19 年版

表 1: 都道府県・国籍別 平成 18 年末現在外国人登録人員(南米出身)

都道府県	ブラジル	ペルー	その他	南米出身 総数
<b>総数</b>	<b>312,979</b>	<b>58,721</b>	<b>16,943</b>	<b>388,643</b>
愛知	76,297	7,957	79	84,333
静岡	51,250	6,373	14	57,637
三重	21,206	3,539	18	24,763
岐阜	20,466	1,112	51	21,629
群馬	17,101	5,242	8	22,351
長野	16,696	1,059	3	17,758
滋賀	13,960	1,927	48	15,935
神奈川	13,933	8,679	300	22,912
埼玉	13,728	4,589	730	19,047
茨城	10,926	2,096	851	13,873
上位 10 の合計	<b>255,563</b>	<b>42,573</b>	<b>2,102</b>	<b>300,238</b>
その他の合計	<b>57,416</b>	<b>16,148</b>	<b>14,841</b>	<b>88,405</b>

参考: 出入国管理統計。入国審査・在留資格審査・退去強制手続等。2006 年版

表2:母語別児童生徒数

	小学校 権成比(%)		中学校 権成比(%)		高等学校 権成比(%)		中等教育学校 権成比(%)		盲・聾・養護学校 権成比(%)		合計 権成比(%)	
ポルトガル語	( 5,881 ) 6,921	( 41.2 ) 43.4	( 1,514 ) 1,576	( 29.8 ) 30.0	( 138 ) 111	( 11.1 ) 9.8	( 1 ) 4	( 4.3 ) 19.0	( 28 ) 21	( 40.0 ) 29.2	( 7,562 ) 8,633	( 36.5 ) 38.5
中国語	( 2,244 ) 2,252	( 15.7 ) 14.1	( 1,548 ) 1,617	( 30.5 ) 30.8	( 656 ) 587	( 52.8 ) 52.0	( 4 ) 6	( 17.4 ) 28.6	( 8 ) 9	( 11.4 ) 12.5	( 4,460 ) 4,471	( 21.6 ) 19.9
スペイン語	( 2,356 ) 2,495	( 16.5 ) 15.6	( 612 ) 616	( 12.1 ) 11.7	( 165 ) 144	( 13.3 ) 12.8	( 4 ) 3	( 17.4 ) 14.3	( 19 ) 21	( 27.1 ) 29.2	( 3,156 ) 3,279	( 15.3 ) 14.6
フィリピン語 (タガログ語)	( 1,433 ) 1,705	( 10.0 ) 10.7	( 633 ) 682	( 12.5 ) 13.0	( 102 ) 115	( 8.2 ) 10.2	( 2 ) 4	( 8.7 ) 19.0	( 6 ) 2	( 8.6 ) 2.8	( 2,176 ) 2,508	( 10.5 ) 11.2
韓国・朝鮮語	( 572 ) 564	( 4.0 ) 3.5	( 242 ) 247	( 4.8 ) 4.7	( 39 ) 43	( 3.1 ) 3.8	( 4 ) 1	( 17.4 ) 4.8	( 2 ) 6	( 2.9 ) 8.3	( 859 ) 861	( 4.2 ) 3.8
ベトナム語	( 515 ) 505	( 3.6 ) 3.8	( 190 ) 153	( 3.7 ) 2.9	( 48 ) 48	( 3.9 ) 4.3	( 0 ) 0	( 0.0 ) 0.0	( 1 ) 2	( 1.4 ) 2.8	( 754 ) 808	( 3.6 ) 3.6
英語	( 391 ) 365	( 2.7 ) 2.3	( 71 ) 81	( 1.4 ) 1.5	( 23 ) 17	( 1.9 ) 1.5	( 1 ) 2	( 4.3 ) 9.5	( 1 ) 1	( 1.4 ) 1.4	( 487 ) 466	( 2.4 ) 2.1
その他	( 889 ) 1,039	( 6.2 ) 6.5	( 266 ) 274	( 5.2 ) 5.2	( 71 ) 63	( 5.7 ) 5.6	( 7 ) 1	( 30.4 ) 4.8	( 5 ) 10	( 7.1 ) 13.9	( 1,238 ) 1,387	( 6.0 ) 6.2
合計	( 14,281 ) 15,946	( 100.0 ) 100.0	( 5,076 ) 5,246	( 100.0 ) 100.0	( 1,242 ) 1,128	( 100.0 ) 100.0	( 23 ) 21	( 100.0 ) 100.0	( 70 ) 72	( 100.0 ) 100.0	( 20,692 ) 22,413	( 100.0 ) 100.0

※1. ( )内の数値は、平成17年9月1日現在である。  
 ※2. 小数点第二位以下四捨五入のため、各区分の比率の合計が必ずしも100%にならない。

出典:文部科学省「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況等に関する調査(平成 18 年度)」

日本国内におけるブラジル国籍住民の増加に伴うブラジル国籍児童も増え、表2に示されているとおり、日本の学校を通学する子どもとともに、在日ブラジル人学校を通学する児童も数多く存在する。当研究班の昨年度の報告書にも記載があるが、国内の約 100 校も存在する推定されているブラジル人学校に通学中の児童数は1万くらいと言われている。

移住労働者及びその家族における HIV 感染などへの脆弱性が高まることは一般的に知られており、当研究グループは日本の代表的な移住労働者集団である在日ブラジル人に焦点を当てて研究を進めてきた。特に、若者に関しては成長過程でまだ未熟であり、さらに両国の狭間で生きていると言う現状のなか、より脆弱な立場であると認識している。

そして、HIV 感染及び STD、望まない妊娠などについて、昨年度に実施したブラジル人学校の生徒を対象とした質的調査で現れた状況 -生活基盤の不整備、両親との離れた暮らし、低年齢での性の初体験、など- を踏まえて、今年度は前記の調査を基に量的調査を行った。

**【目的】**

滞日ブラジル人若者の社会文化環境や地域的リソース・問題点を把握し、それに適した有効な予防対策(教育プログラム)を開発し普及する。

**【研究デザイン】**

滞日ブラジル人若者(思春期)に対象を絞った予防介入基礎構築のための形成調査。

## 【方法】

質的調査及び量的調査における実態の把握を行った。

2006年度は「若者の声」及び「コミュニティーリーダーの声」を抽出ためそれぞれ、若者40人、そしてコミュニティーリーダー6人を対象にインタビューを通して、質的調査を実施した。また、ブラジル人学校における「エイズ教育実態」を把握するための量的調査を実施した。

2007年度はブラジル人学校の小学校高学年から高校までの生徒を対象に「HIV関連知識・意識」を把握するため、無記名自記式アンケート調査票を用いて量的調査を実施した。

---

## 《量的調査:HIV関連知識・意識調査》

### 【対象】

「HIV関連知識・意識調査」の対象者は在日ブラジル人学校に通学中の基礎5年生から高校3年生までの生徒であった。年齢的には13歳以上の生徒にあたる。対象学年に相当する生徒は、ブラジル人学校協会に加盟している全40校のうち24校に在籍し、24校全てが調査対象となった。生徒人数では、約1,200人であった。

### 【調査方法】

無記名自己記入式アンケート調査票を用いて、調査票は回答後に中身が見えないよう封をするためのシールを使用した。

昨年度に実施した「在日ブラジル人学校におけるエイズ予防教育の実態調査」(当研究班の平成18年度報告書参照)の結果に基づいて、対象の生徒が在籍する学校に対してメールや文書及び電話でアンケート調査協力の依頼を行った。

アンケート調査は郵送にて配布・回収を行った。

調査は対象学校の先生が実施し、実施方法などは当研究チームが電話で説明し、さらにインストラクションが書かれている手紙を調査票とともに同封した。また、調査票を返送するための封筒(パック)なども同封した。

### 【調査項目】

調査項目は下記の通りであった(詳細は当研究班の平成18年度の報告書にて)

- A- 属性:性別、年齢、学年、日本滞在期間及び過去の来日歴、日本国内における移動(引越し)歴、日本の通常の学校通学歴、主要言語、両親との生活歴、現在の同居人
- B- 自己へのセーフティネット:相談相手の有無、相談相手はだれか、尊敬する人の有無、尊敬相手はだれか、現在の生活への満足度、日本の暮らしへの満足度、在校中の学校への満足度、将来への夢の有無、将来の夢は何か、夢を実現するためにやっていること

- C- 放課後の遊びについて: 誰と過ごすか、どのように過ごすか、どこに行くか
- D- 夜遊びについて: 夜遊びして朝帰り経験の有無とその頻度、どこで夜遊びをするか、両親の容認の有無
- E- 携帯電話所持の有無、携帯電話サイトへのアクセス経験の有無及び頻度、携帯電話料金
- F- インターネットへのアクセス体験の有無、頻度、目的、ネット上での様々な経験の有無 (出会い系サイト、ポルノサイトなど)
- G- タバコ、飲酒、援助交際、ドラッグ、万引き、暴力をふるわれた、暴力をふるう、自傷行為などの経験の有無
- H- 交際について: 「その場限り」の交際の経験; 「ステディな恋人」の交際の経験の有無、初体験の年齢、相手の人数
- I- 性経験について: セックス体験の有無、初体験の年齢、相手の人数、コンドーム使用の有無、コンドーム使用の目的、コンドームを使用しなかった理由
- J- HIV/Aids/STD 関連の知識: 日本とブラジルの HIV 流行、HIV 感染経路・予防法、HIV 検査について、他の STD について、避妊方法について
- K- HIV、STD や望まない妊娠の予防について: 予防意識、予防に対する実行力
- L- 性交渉への容認について
- M- HIV 陽性者への態度
- N- より深く知りたいテーマについて
- O- 情報収集ツールについて

[結果]

- 回収率: 83.3% (20/24) で、回収調査票総数は 831 件であった。しかし、統計上、12 歳未満及び、性別、年齢が不明を省き、全 811 件のみを統計の母体とした。
- 学校の所在地及び学校数は下記の通りである (表 3):

表3: ブラジル人学校調査 2007: サンプルングサイト

静岡県(5校)	茨城県(2校)
愛知県(4校)	栃木県(1校)
群馬県(4校)	三重県(1校)
岐阜県(2校)	埼玉県(1校)

● 基礎統計の結果:

性別: 全体的に女子が多く、女子が 54%、そして男子 46%をしめた(表 4)。

表 4: ブラジル人学校調査 2007-性別

性別	女子	男子
数	438	373
%	54,0%	46,0%

性別・年齢及び学年構成:

学年別には、基礎教育 8 年生と高校 1 年生が約 5 割をしめ、高校高学年になるにつれ、生徒数は減少している。(図 3)

ブラジル人学校の 1 つの特徴でもあることは、学年と年齢が必ずしも一致しないことである。移動や日本の通常学校からの転校のため学習が遅れていることが理由としてあげられている。従って、1 つの学年での年齢の幅は広いものになる。例えば、高校 2 年生には 15 歳から 18 歳の生徒が同じクラスで勉強している(図 5)。

図3:ブラジル人学校調査 2007:在学年分布

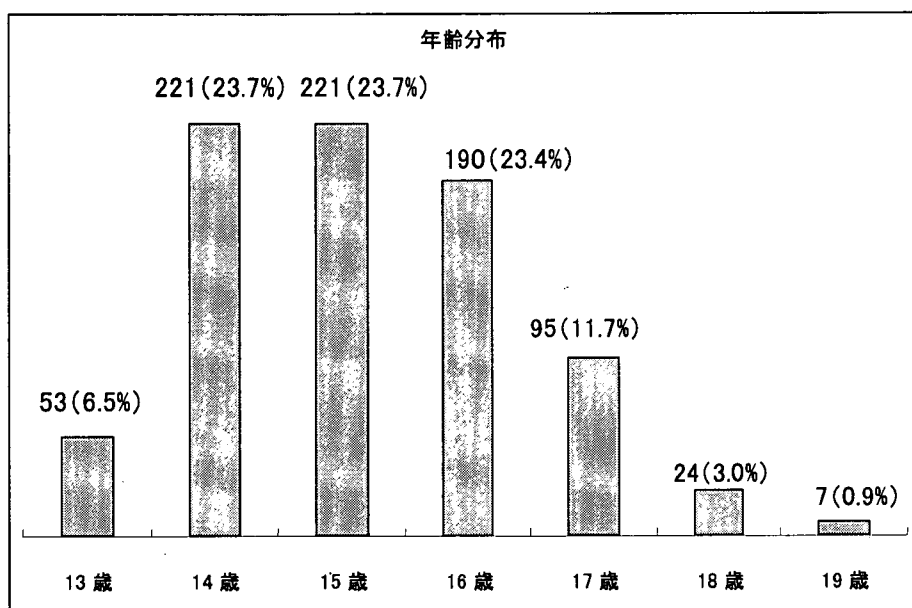


図 4:ブラジル人学校調査 2007-性別学年分布

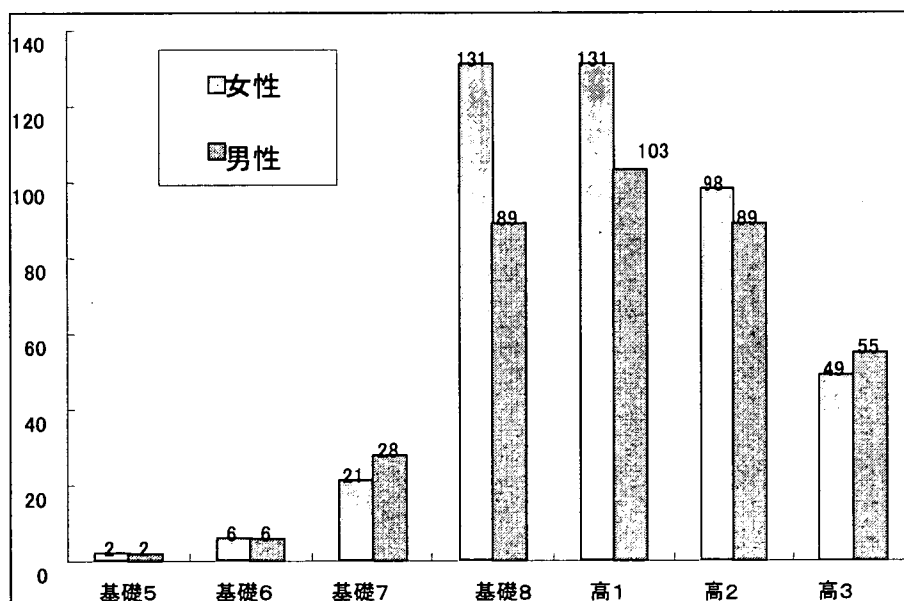
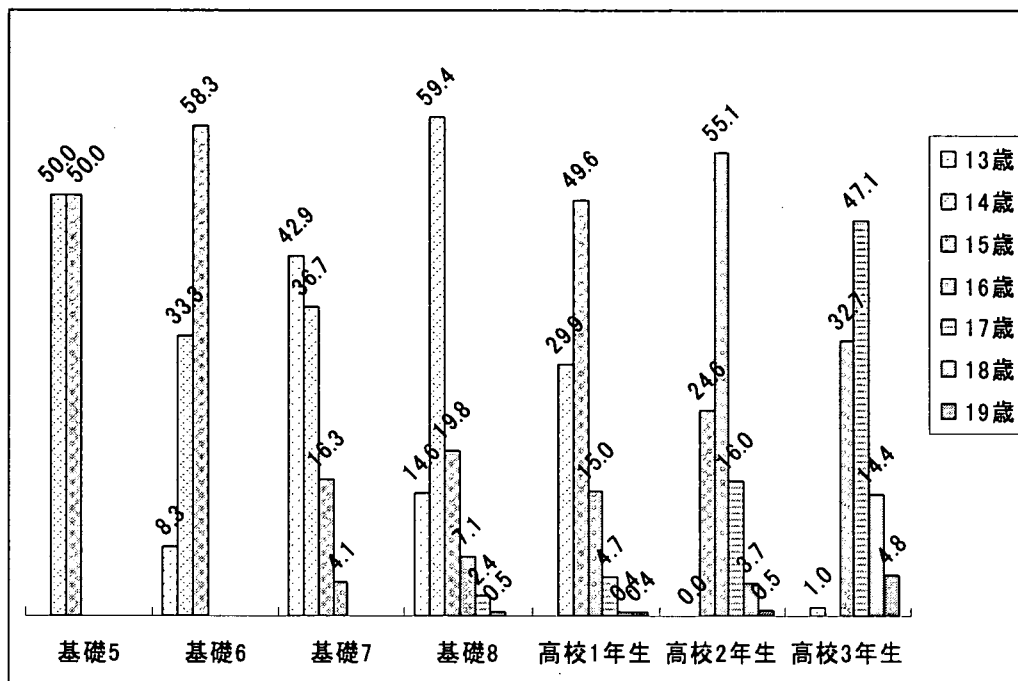


図 5: ブラジル人学校調査 2007: 学年における年齢分布



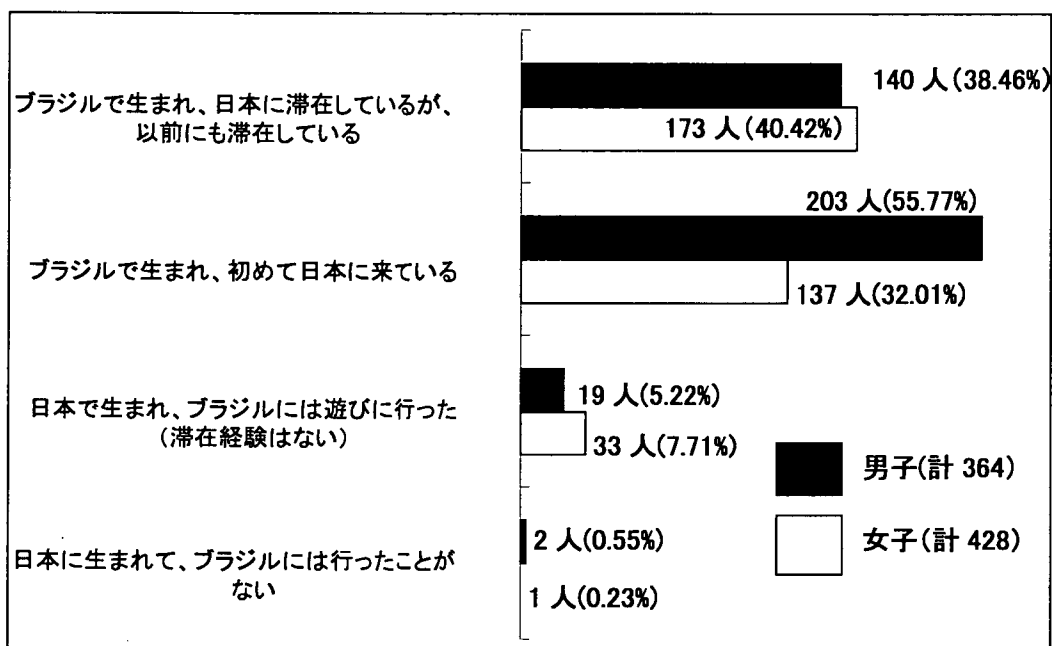
来日経験と滞在期間:

「日本生まれで、ブラジルに行ったことがない」生徒が 3 人で、また「日本生まれでブラジルには遊びのみに行ったことがある」生徒が約 6.57% (52 人) であった。

一方、「ブラジル生まれで今回が初めての来日である」と回答した生徒が男子で 203 人 (55.77%) をしめ、女子では 137 人の 32.01%にとどまった。また、「ブラジル生まれで、以前にも来日経験がある」と回答した男子が 140 人で 38.46%、そして、女子では 173 人 (40.42%) が以前にも来日経験があった(図 6)。

図 6: ブラジル人学校調査 2007: 来日経験の分布・男女別



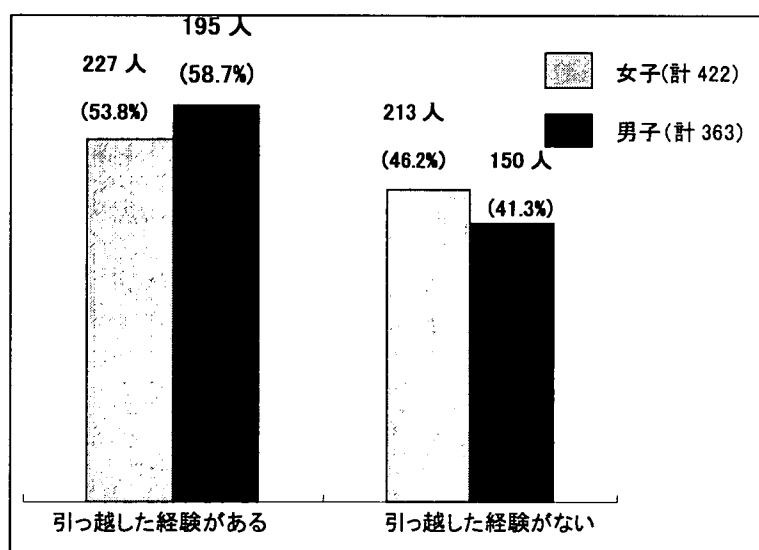


また、「はじめての来日」であると回答した生徒における平均滞在期間は約 4 年 6 ヶ月で、「以前にも来日経験」のある生徒で、「1 回目の来日時期間」の平均は 3 年 8 ヶ月、年齢的には mean4.6±3.4 歳で来日、そして、mean8.3±3.4 歳で帰国。そして「2 回目の来日時期間」は約 3 年 1 ヶ月、年齢では mean10.4±3.3 歳で来日し、mean13.4±3.1 歳で帰国している。

日本国内における移動:

日本国内で引越しをした経験について、「引越し経験」が「ある」と回答した生徒が「ない」より多く、女子は 53.8%で 227 人、そして男子では 195 人 (58.7%)であった。そして、その引越し平均回数は 2.34 ±1.6 回であった(図 7)。

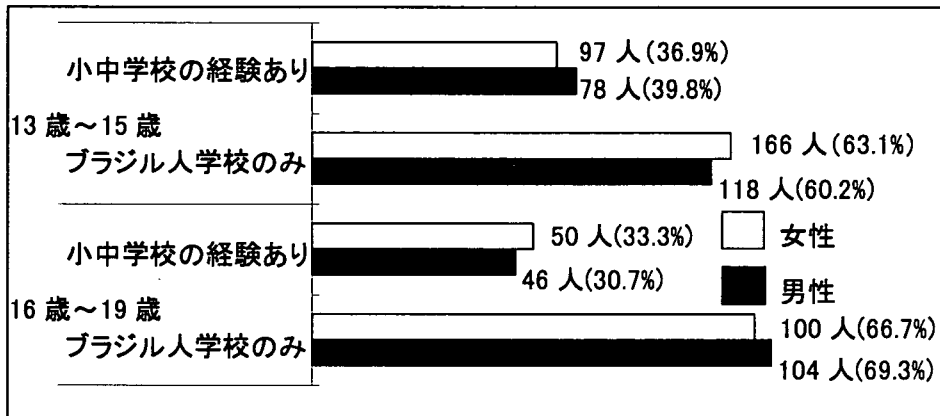
図 7: ブラジル人学校調査 2007-日本国内での引越し経験、男女別



日本の通常学校・ブラジル人学校における経験:

通学学校経験に関しては、「ブラジル人学校のみ」に通った生徒は全体的に約 6 割であったが、男女共に 16 歳以上の生徒では約 65%で、15 歳以下は約 56%であった。また、「日本の学校の経験がある」と回答した生徒は、全体的に約 3 割であったが、「小学校」に通ったと回答した生徒は 8 割から 9 割であった。そして、「中学校」が約 2 割くらいであった(図 8)。

図 8: ブラジル人学校調査 2007: 学校における経験率-年齢群及び性別



そして、日本の通常学校経験のある生徒の入学・退学(卒業)における状況を調べると、約 5-6 割は小学校 1 年生に入学するが、その他の 3-4 割は小学校 2 年生から 6 年生のいずれの学年において入学していることが分かる。また、小学校 6 年生を卒業する生徒は 3 割程度にとどまり、その他の約 7 割は途中で中退している(図 9)。

そして、日本の中学校経験者における入退学年状況に関しては、女子では 8 割くらいは「中 1」での入学し、そして 3 割程度が「中 3」を卒業している。男子に関しては、「中 1」で入学する割合は 5 歳以下で 5 割くらい、16 歳以上では約 8 割であった。そして、約 8 割が卒業している。中学校に関しては小学校からそのまま上がった生徒も含む(図 10)。

図 9: ブラジル人学校調査 2007: 日本の小学校における入退学年の状況の分布

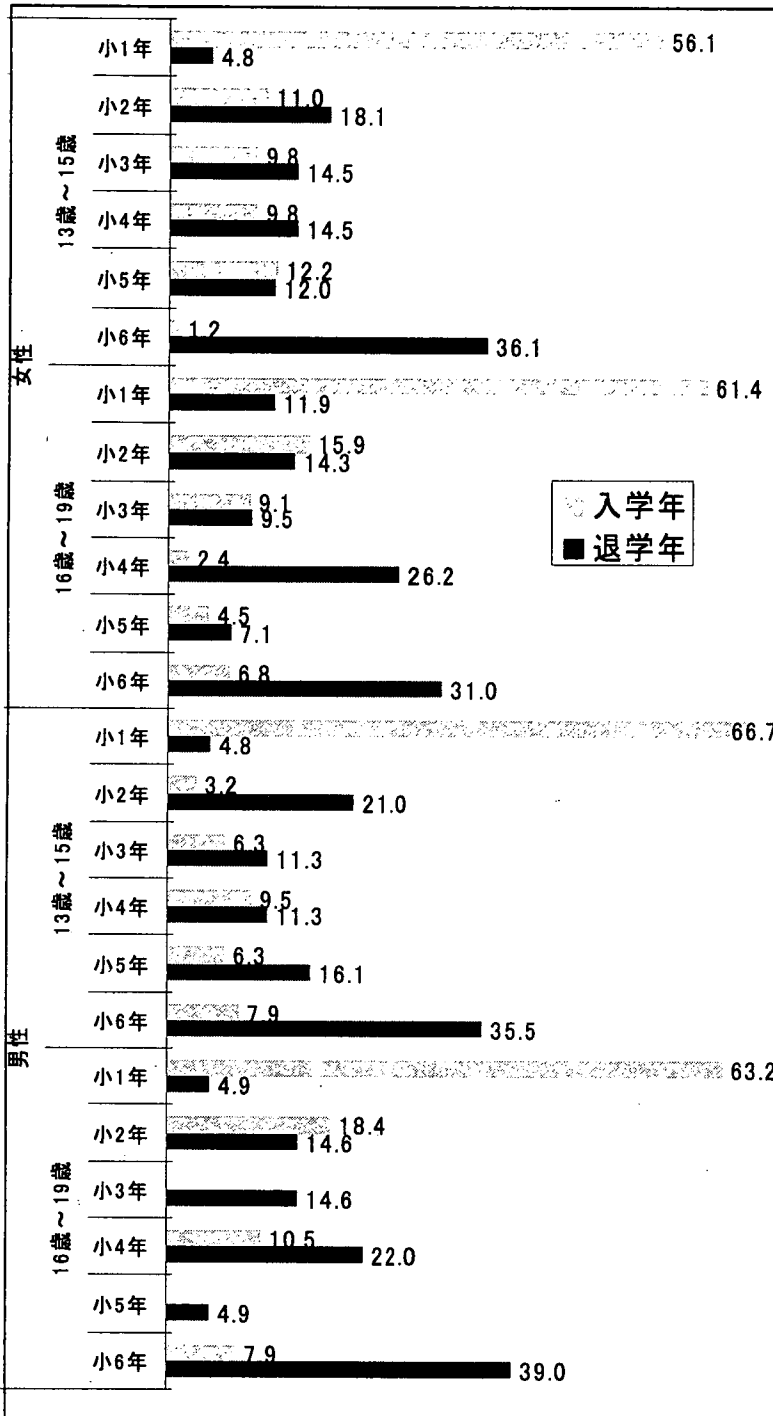
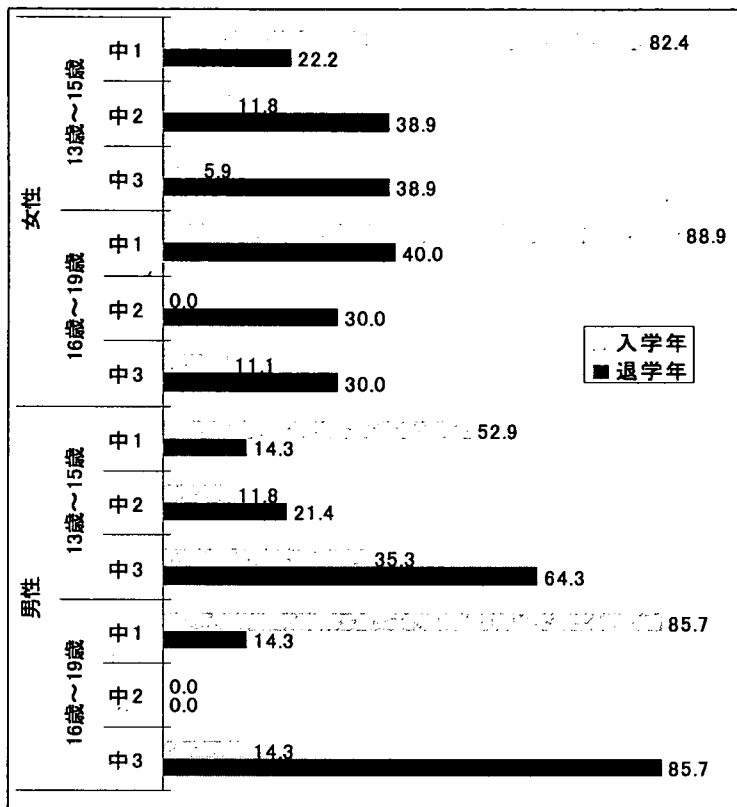


図 10: ブラジル人学校調査 2007: 日本の中学校における入退学年の状況の分布



**使用言語:**

言語力に関しては、5段階のに分け「文書を書く」を最も難しい段階として設定し、続いて「新聞、雑誌を読み理解する」、次に「テレビのニュースの理解」、そして「映画の理解」、「漫画を読んで理解する」の順にその言語力を表した。また、身近な環境におけるコミュニケーションに関して、「内密な話をする」、「友達や」、「兄弟」、「両親」と話をする、と言う項目を設けた。言語力及び身近なコミュニケーションを全て、「日本語が良い」、「ポルトガル語が良い」、「どちらでも良い」と言う選択肢を設定した。

その結果、より言語力が必要である「手紙を書く」などは約 8-9 割「ポルトガル語」がよいと回答しているに対して、「漫画」に関しては、3 割以上が「どちらでも良い」と回答している(図 11)。

また、他人とのコミュニケーションに関しては、両親や兄弟、つまり、「家族」とは「ポルトガル語」が主要言語になり、「友達」とは「どちらでも良い」が 33.6%を占めている(図12)。

図 11:ブラジル人学校調査 2007:主要言語における分布-男女別

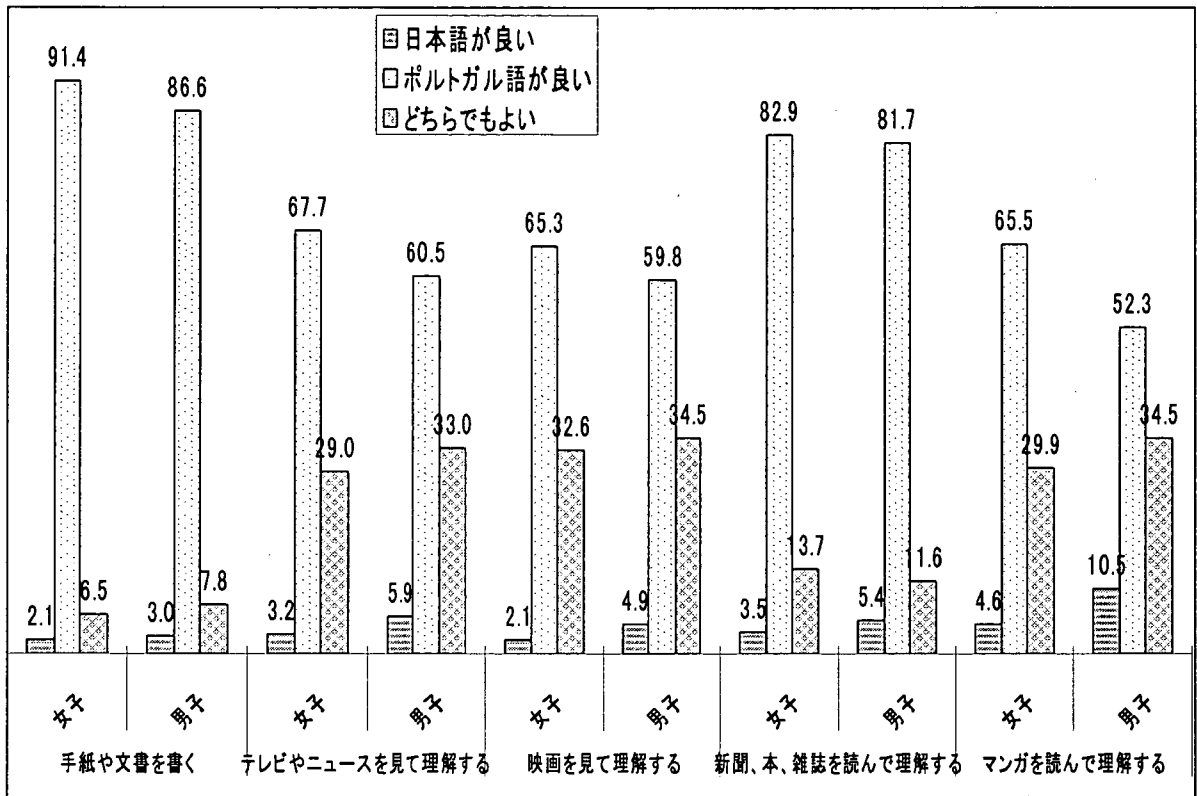
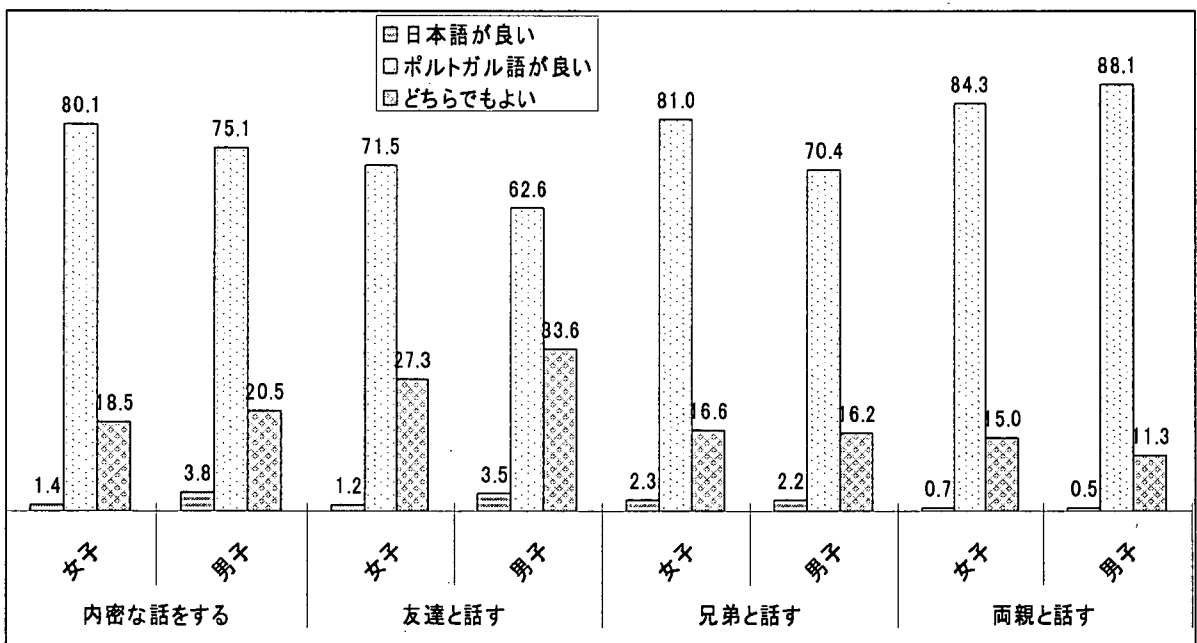


図 12:ブラジル人学校調査 2007:他人との主要言語における分布-男女別



《サポートネットワーク関連》

### 両親との離れた暮らしの経験:

全体的に「父親と離れて暮らした経験者」は約 32.8%(平均期間:約 8 年 4 ヶ月)、そして「母親と離れて暮らした経験者」は約 14.9%(平均期間:約 8 年 8 ヶ月)であった。また、「同時期に両親共にと離れて暮らした経験者」は約 30.0%(平均期間:約 8 年 2 ヶ月)であった。なお、「両親と離れて暮らしたことがない」と回答した生徒は約 31.1%であった(表 5)。

表 5: ブラジル人学校調査 2007: 両親と離れて暮らした経験の%

離れて暮らしたことがありますか?		
	度数	%
父親と離れて暮らした経験がある	253	32.8
母親と離れて暮らした経験がある	115	14.9
両親と離れて暮らした経験がある	232	30.0
現在母親と離れて暮らしている	12	1.6
現在父親と離れて暮らしている	38	4.9
両親と離れて暮らしたことはない (ずっと一緒に暮らしている)	240	31.1
合計	771	100

### 家庭内の状況:

「現在、誰と住んでいるか」と言う質問に関しては、複数回答による結果は「母親」とは約 9.5 割、「父親」とは約 8.6 割、そして「兄弟」とは約 6 割、また「親戚」と同居をしていると回答した生徒は約 6%であった。また、「父親又は母親の恋人」や、「継母」及び「継父」と同居している生徒は合わせて約 8.7%であった(表 6)。

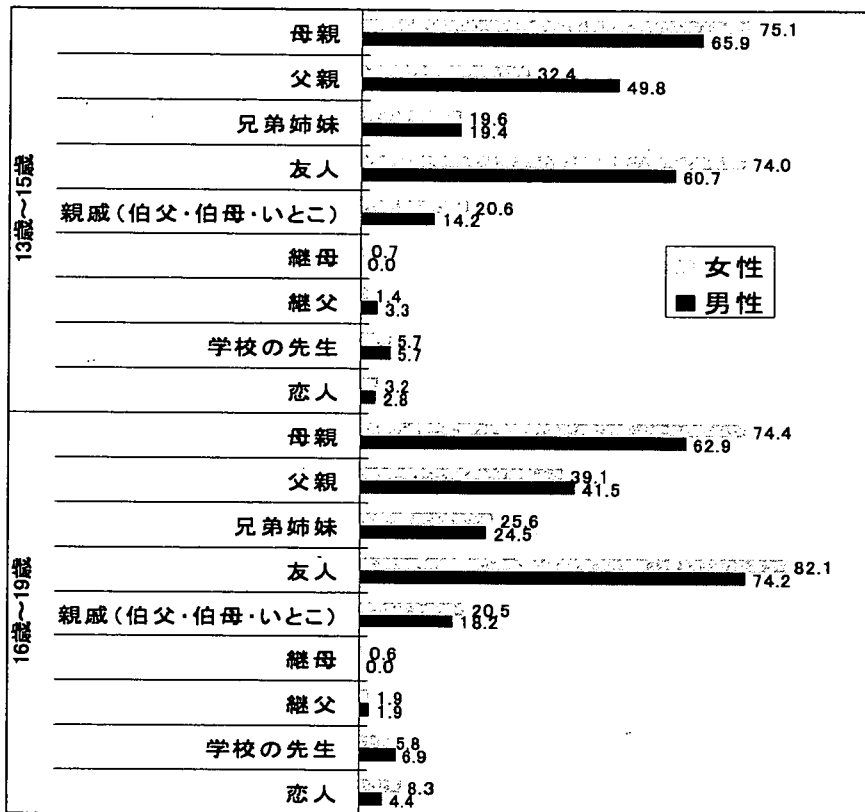
表 6: ブラジル人学校調査 2007: 現在の同居人—複数回答

現在、誰と住んでいますか?		
	度数	%
母親と暮らしている	763	95.7
父親と暮らしている	688	86.3
兄弟姉妹と暮らしている	512	64.2
親戚と暮らしている	54	6.8
恋人と暮らしている	3	0.4
母親の恋人と暮らしている	12	1.5
父親の恋人と暮らしている	2	0.3
継母と暮らしている	11	1.4
継父と暮らしている	44	5.5
合計	797	100.0

### 相談相手:

「困った時に誰に相談するか」の質問に対し、全体的に最も多かったのは「母親」で、特に女子では約 75%が「母親」が相談相手であると回答した。しかし、16 歳以上の男女共に「友人」が相談相手として最も上げられていた(7-8 割)。「父親」が相談相手と回答した生徒は約 4 割で、「親戚」が約 2 割であった。そして、「継母」や「継父」に関しては約 1%前後であった。また、「一人で解決する」、「誰にも相談しない」そして「神様」と回答した生徒は合計で約 10%であった(図 13)。

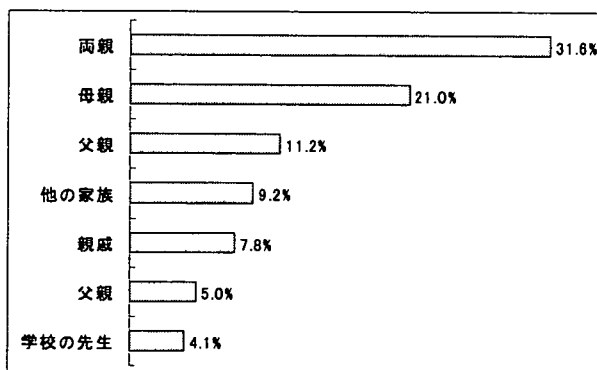
図 13:ブラジル人学校調査 2007:困った時の相談相手の分布(複数回答)-男女別



尊敬する人の有無:

「貴方は尊敬する人がいるか」の質問について、約 65.4%は尊敬する人がいると回答し、また、複数回答でその尊敬する人の約 30%が「両親」、そして約 20%が「母親」をあげている(図 14)。

図 14:ブラジル人学校調査 2007:尊敬する相手の分布(複数回答)



生活環境への満足度:

「現在、あなたの生活に満足しているか」を「とても満足している」から「全く満足していない」の5段階のスケールを使用し、さらに「分からない」を設けた質問に対し、男女・年齢共に、最も多い回答は「まあまあ満足している」で全体的に約3-4割であった。そして、次に「満足している」が約3割、「とても満足している」と回答した生徒は僅か2.5割くらいであった(表7)。

そして、「あなたは日本に住むことに対する満足」については、同じく5段階のスケール及び「分からない」の選択肢をもうけ、低年齢の男女共に「まあまあ満足している」と回答した生徒が最も多く、約3割であった。また、高年齢においては男女共に「満足している」と回答したした生徒が最も多く、約4割であった(表7)。

表7:ブラジル人学校調査2007:現在の生活及び日本に住むこのに対する満足度-年齢群・男女別

年齢	項目	現在の生活への満足度				日本に住むことに対する満足度			
		女子		男子		女子		男子	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
13～15 歳	とても満足している	41	14.6	72	25.5	60	28.2	35	16.4
	満足している	84	30.0	82	29.1	84	<u>39.4</u>	59	27.7
	まあまあ満足している	107	<u>38.2</u>	90	<u>31.9</u>	48	22.5	89	<u>41.8</u>
	あまり満足していない	27	9.6	24	8.5	13	6.1	21	9.9
	まったく満足していない	10	3.6	9	3.2	6	2.8	3	1.4
	わからない	11	3.9	5	1.8	2	0.9	6	2.8
	合計	280	100	282	100.0	213	100.0	213	100
16～19 歳	とても満足している	20	12.8	39	25.0	25	15.7	20	12.6
	満足している	52	33.3	65	<u>41.7</u>	65	<u>40.9</u>	45	28.3
	まあまあ満足している	66	<u>42.3</u>	37	23.7	47	29.6	69	<u>43.4</u>
	あまり満足していない	15	9.6	12	7.7	15	9.4	15	9.4
	まったく満足していない	2	1.3	3	1.9	4	2.5	5	3.1
	わからない	1	0.6	0	0.0	3	1.9	5	3.1
	合計	156	100	156	100.0	159	100.0	159	100

そして、「あなたは学校が好き」についての質問についても、5段階の選択肢をもうけ、男女、年齢を問わず、約3割が「好き」そして、約3割が「まあまあ好き」と回答した。そして、「あまり好きでない」の回答が最も多かったのは16歳以上の男子であった(約13.1%) (表8)。

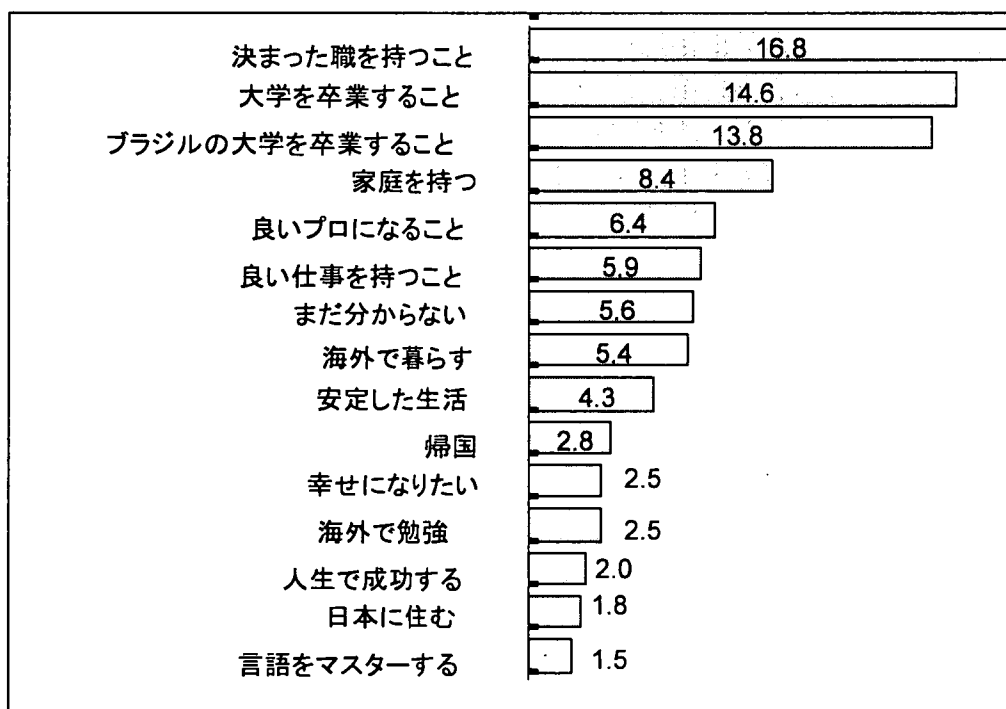
表8:ブラジル人学校調査2007:学校への満足度-年齢群・男女別



年齢	項目	女子		男子	
		度数	%	度数	%
13～15 歳	とても好き	58	20.6	30	14.2
	好き	96	34.0	71	33.5
	まあまあ好き	95	33.7	74	34.9
	あまり好きではない	23	8.2	21	9.9
	まったく好きではない	7	2.5	14	6.6
	わからない	3	1.1	2	0.9
	合計	282	100.0	212	100.0
16～19 歳	とても好き	25	16.1	16	10.0
	好き	46	29.7	54	33.8
	まあまあ好き	57	36.8	58	36.3
	あまり好きではない	20	12.9	21	13.1
	まったく好きではない	6	3.9	10	6.3
	わからない	1	0.6	1	0.6
	合計	155	100.0	160	100.0

そして、「将来の夢」を記述形式で質問したところ、「決まった職(専門的な職業)を持ちたい」という回答が最も多く、約17%で、「大学を卒業」が 13-14%、そして、「日本に住む」が僅か 1.8%であった(図 15)。

図 15: ブラジル人学校調査 2007: 将来の夢(自由記述)



《遊び場などについて》

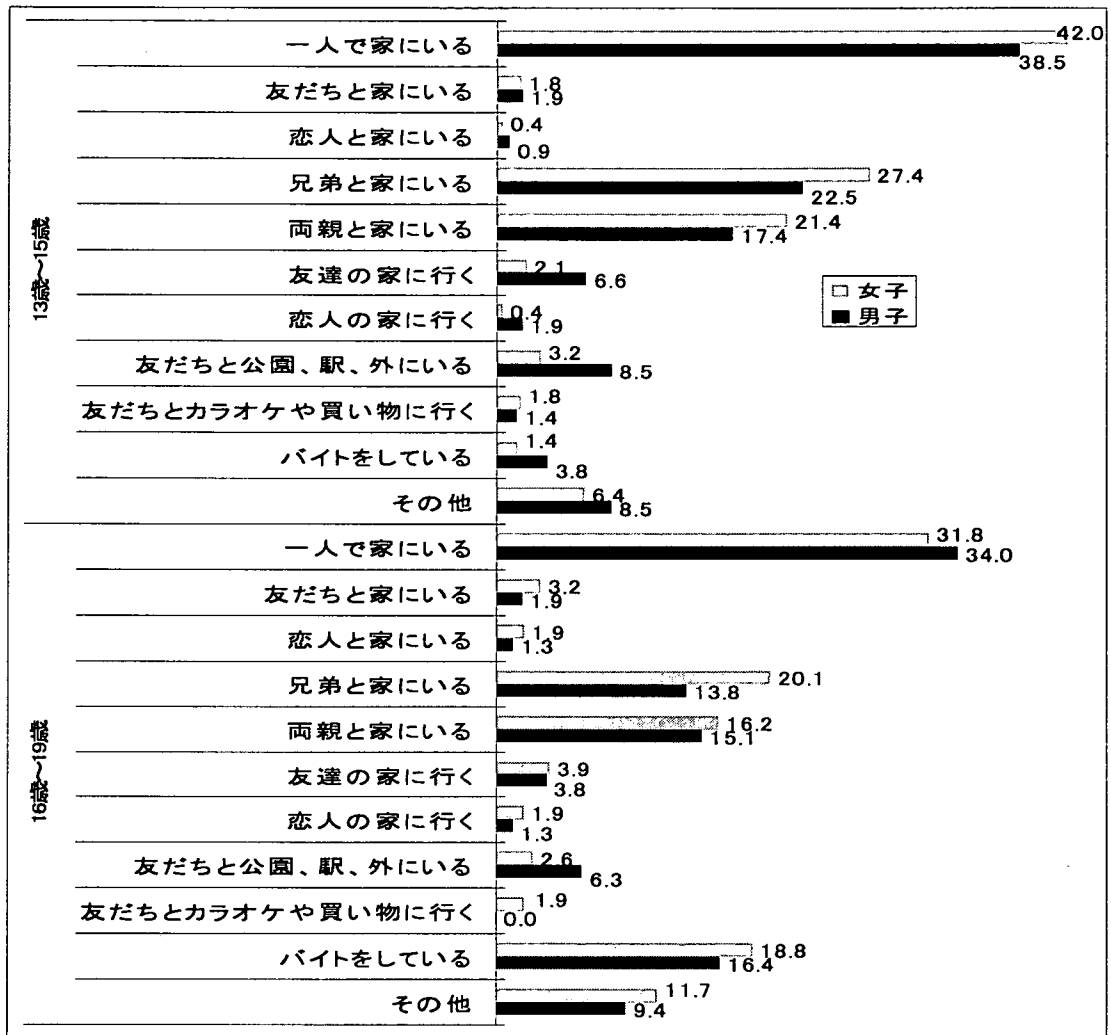
放課後や休みの過ごし方:

「平日、放課後はどのように過ごしているか」の複数回答の質問に対して、年齢・男女問わず、最も多かった回答は「一人で家にいる」であった(約3-4割)、次に16歳以上の男女以外は「兄弟」や「両親」と過ごす、それぞれ約2割であった。また、16歳以上の男女共については、「一人で家にいる」の次に多かった回答は「バイトに行く」という回答で約16%であった(表9)(図16)。

表9:ブラジル人学校調査2007:放課後の過ごし方-年齢群・男女別

年齢	項目	女子		男子	
		度数	%	度数	%
13~15 歳	一人で家にいる	118	42.0	82	38.5
	友だちと家にいる	5	1.8	4	1.9
	恋人と家にいる	1	0.4	2	0.9
	兄弟と家にいる	77	27.4	48	22.5
	両親と家にいる	60	21.4	37	17.4
	友達の家に行く	6	2.1	14	6.6
	恋人の家に行く	1	0.4	4	1.9
	友だちと公園、駅、外にいる	9	3.2	18	8.5
	友だちとカラオケや買い物に行く	5	1.8	3	1.4
	バイトをしている	4	1.4	8	3.8
	その他	18	6.4	18	8.5
	合計	281	100.0	213	100.0
16~19 歳	一人で家にいる	49	31.8	54	34.0
	友だちと家にいる	5	3.2	3	1.9
	恋人と家にいる	3	1.9	2	1.3
	兄弟と家にいる	31	20.1	22	13.8
	両親と家にいる	25	16.2	24	15.1
	友達の家に行く	6	3.9	6	3.8
	恋人の家に行く	3	1.9	2	1.3
	友だちと公園、駅、外にいる	4	2.6	10	6.3
	友だちとカラオケや買い物に行く	3	1.9	0	0.0
	バイトをしている	29	18.8	26	16.4
	その他	18	11.7	15	9.4
	合計	154	100.0	159	100.0

図16:ブラジル人学校調査2007:放課後の過ごし方-年齢群・男女別



「学校が休みの日、週末などはどのように過ごしているか」の複数回答可能な質問に対して、女子では「ショッピング」と共に「家でインターネットをしている」回答した生徒が最も多く約6割であった。男子では、「家でインターネットをしている」と回答した生徒が最も多く、約6割であった(表10)(図17)。

表10:ブラジル人学校調査2007:休みの過ごし方(複数回答)-年齢群・男女別

年齢	項目	女子		男子	
		度数	%	度数	%
13～15 歳	ゲームセンター	74	26.2	78	37.1
	ショッピング	179	63.5	68	32.4
	ディスコ	37	13.1	15	7.1
	カラオケ	30	10.6	11	5.2
	公園、駅、街	114	40.4	84	40.0
	友だちの家に行く	120	42.6	85	40.5
	恋人の家に行く	23	8.2	8	3.8
	家でインターネットをする	199	70.6	131	62.4
	家にいて何もしない	88	31.2	34	16.2
	その他	35	12.4	33	15.7
	合計	282	100.0	210	100.0
16～19 歳	ゲームセンター	53	34.0	65	40.6
	ショッピング	103	66.0	66	41.3
	ディスコ	29	18.6	22	13.8
	カラオケ	29	18.6	12	7.5
	公園、駅、街	59	37.8	73	45.6
	友だちの家に行く	62	39.7	64	40.0
	恋人の家に行く	27	17.3	28	17.5
	家でインターネットをする	105	67.3	97	60.6
	家にいて何もしない	44	28.2	39	24.4
	その他	21	13.5	24	15.0
	合計	156	100.0	160	100.0

図17:ブラジル人学校調査2007:休みの過ごし方(複数回答)-年齢群・男女別